

（午後2時35分 再開）

○議長（小林 弘君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番11、4番 森下君。

〔4番（森下伸吾君）登壇〕

○4番（森下伸吾君）ただ今、議長のお許しを頂きましたので、通告に従い一般質問を行わせていただきます。

その質問の前に一般質問に関して、一つエピソードをお話をさせていただきたいというふうに思います。

先日、私のところに1本の電話を市民の方から頂きまして、だいたい市民の方から頂く電話というと苦情の電話か悩みの電話であったりとかということが多いんですが、そのご夫妻、先日橋本市の集団のワクチン接種を受けられたそうで、無事に集団接種を終えた後に、その会場の中でちょうどマイナンバーカードの申請も行ってあったそうです。そちらでマイナンバーカードの申請もできたということですごく喜んでいらっしゃいまして、担当の方によろしくお伝えくださいということでありました。ご高齢の方だったので、ご主人のほう動くのが、体がちょっとご不自由なところもございまして、マイナンバーカードの申請に行きたいと思っていたんやけども、やっぱりお父さんを連れて行くのは大変やしなというふうに思っていたそうで、ちょうどそういったワクチン接種会場でマイナンバーの申請もできてすごく喜んでいたということで、私も一般質問でマイナンバーの普及の一般質問をさせていただいていましたうれしかったとともに、そうやって日曜日、休日に出勤してマイナンバーの普及に取り組んでい

ただいております市民課の方々、またワクチン接種に一生懸命取り組んでいただいているいきいき健康課の方に御礼を申し上げて、喜びの声をお伝えして、一般質問に移らせていただきたいと思います。

今回の一般質問としまして、コロナ禍における特定健診についてお聞きしたいと思いません。

新型コロナウイルスに感染した場合、基礎疾患を有する人は重症化するリスクが高いと考えられています。基礎疾患には糖尿病等の生活習慣病が含まれています。今回のような感染症の流行の有無にかかわらず、様々な病気を重篤化させるリスクが高い生活習慣病の予防や重症化防止に向けた対策は引き続き重要だと考えます。

生活習慣病の予防・重症化防止に向けた対策の一つに、特定健診・特定保健指導があります。しかし、全国的に感染を恐れて特定健診の受診を控えている人が多くなっています。本市でも同じ傾向があるのか、当局に見解をお伺いいたしまして、壇上からの私の一般質問とさせていただきます。

○議長（小林 弘君）4番 森下君の質問、コロナ禍における特定健診に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（土井加奈子君）登壇〕

○健康福祉部長（土井加奈子君）コロナ禍における特定健診についてお答えします。

特定健診・特定保健指導は、主としてメタボリックシンドロームに着目し、健診により保健指導対象者を抽出し保健指導を行うことで、その要因となっている生活習慣を改善し、生活習慣病予防を行うことを目的としていま

す。国は基本指針の中の特定健診受診率に係る令和5年度の最終目標を市町村国保については60%と掲げており、市としても重要な健診と位置づけ日々推進をしているところです。

市では、従前より受診対象者への受診券の個別発送や、はがきによる受診勧奨通知の発送、電話による受診勧奨等を実施し、受診勧奨・啓発や未受診者対策を強化しており、受診率は、平成29年度38.7%、平成30年度38.3%、令和元年度は39.0%と微増ながら上昇していました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が発生し始めた令和2年度は受診率が31.3%と、前年度から7.7%下降する結果となりました。下降の原因としては、国の通知により緊急事態宣言下での健診事業を控えたことや、感染拡大により夏季の集団健診を中止し、その代替として実施した冬季の集団健診についても回数を減らさざるを得なかったこと、さらに密を避けるため1回当たりの検査人数も減らしたことによる影響が大きいと考えられます。

また、議員おただしのおり、感染リスクを懸念して医療機関での健診を控えた方が一定数いたことも推察されます。

和歌山県下の市町村国保の状況についても、30市町村のうち26市町で令和2年度の特定健診受診率は前年度から下降しており、全国的に同様の傾向であると推察します。

令和4年度も、引き続き健診受診勧奨と啓発を強化し、受診率向上に努め、生活習慣病の予防と重症化防止に向けて取り組みます。

○議長（小林 弘君）4番 森下君、再質問ありますか。

4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）ありがとうございます。それでは、答弁を頂きましたので再質問をさせていただきますと思います。

コロナ禍における特定健診ですのでご苦勞を頂いて大変な中ですが、先ほどのご答弁の中では県下の市町村国保の状況についても、30市町村のうち26市町村で令和2年と比べて、特定健診の受診率は前年から下降している。全国的に同じなんです、本市としては前年度から7.7%も下降しているということでありました。和歌山県下9市ございますが、やはりほかの8市と比べても同じぐらいのパーセントの下げであったというふうでよかったでしょうか。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）ほかの8市との比較について、すいません、今手元に資料は持ち合わせていないんですけれども、26市町で下がったというところで、維持されていた、もしくは上昇したというのは町村が多いというふうに聞いておりますので、率は別として同じように下降しているものと思います。

○議長（小林 弘君）4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）その辺り、他市町のことなんで数字が分からないところもあったと思うんですが。そしたら、本市で7.7%というどれぐらいの方が前年度に比べて少なくなったのか、何人ぐらい受ける人が少なくなったのか、その辺はわかりますか。本市のことですけれども。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）まず、先ほどの他市8市の状況ですが、橋本市が7.7%下降しましたが、だいたい1.5%から11.9%の中でやはり下降している市町が橋本市を含めて8市、それから、一つの市だけが0.4%上がっているという速報値を頂いています。令和2年度の方です。橋本市が7.7%で、対象者1万1,023人に対して受診者数が3,445人なので、70人ぐらいかなと思います。70人から100人ぐ

らの受診の人数が減っているのではないかと思います。

○議長（小林 弘君）4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）突然数字を聞いたので、その辺申し訳ないです。ただ、やはり下降幅7%。39%まで上がっていたのが7.7%下がったということですから、結構な大きな下げ率やと思います。ですので、これはやっぱり注視しないとイケないなと思いました。先ほどのお話では1%しか下がっていないようなところもあるということでしたし、11%まで下がっているような市もあったということでありましたので、やはりその下げ幅という意味では結構本市においても行かれなかった、健診を受けなかった方が増えたんじゃないかなということは注視しないとイケないと思います。

先ほどのご答弁の中にも、集団健診が回数ができなかったというふうなお答えもございました。回数を減らしたことによって受診を控える方もあったということですが、ある程度コロナについては分かってきたところもございますし、集団健診は来年度はまたされるのか。回数的に例年どおりぐらいにされるのか。それともやはり控えていくのか。その点はいかがでしょうか。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）まず2年度がかなりの下げ幅があったという原因につきましては、先ほどの答弁の中の内容を詳しく説明させていただきましたら、毎年4月からの健診をすぐにスタートできるように、3月中には受診券をお送りしています。これは来年度に向けても同じような対策というか、手続きを取らせていただくんですけども。令和2年度につきましては、緊急事態宣言の下で集団健診を控えるようにということで控えた分、冬季にその分を回しました。ところが、

同じ集団健診の回数が開けたわけではなく、検診車の手配ですとか会場の確保というのがなかなか難しく、回数を減らさざるを得なかったというところがありまして、それともう一つは、やはり密を避けるために1回当たりの検査人数を減らしたということもあります。

来年度に向けては、同じように受診券を3月中にお送りしまして、4月当初から個別のクリニックで受診していただけるように。それから、夏季から冬季、夏から冬にかけては、集団健診を各地区公民館とか、それから保健福祉センターなど市内の各地で、集団健診に行っていただきやすいように検診車を配車して環境整備に努めてまいりたいと思っています。

○議長（小林 弘君）4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）そしたら、例年どおり、コロナ禍以前の回数に戻るということでよろしいですか。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）集団健診の回数につきましては、令和元年度は各地区公民館を含めて、福祉センターも含めて32回行って、その回数に戻し32回を予定しています。令和3年度も32回を実施いたしました。

○議長（小林 弘君）4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）ですから、以前に回数を戻していただいて、令和2年度は回数が減ったので減ったということであったと思います。ただ、このコロナ禍ですから、やはり集団健診となるとそこで感染しないのかということが気になる方もいらっしゃるかもしれないという方もいらっしゃるかも分かりませんが、そういった方に対して、集団健診でも感染対策をしっかりとやっているよというような意味も込めて、その辺の対策はしっかりと取られていると思いますが、その点はいかがでしょうか。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）集団健診時のコロナ対策といたしましては、受診者に対しまして事前に感染対策の基本的なお願いをしています。それから、受診時の密を避けるために1日の受診人数を制限しましたりですか、予約の時間を厳守していただくようお願いをしております。それから、受けるほうのスタッフのほうも感染対策を行いまして、1人が済んだら機材などのアルコール消毒を徹底して、職員の体調管理にも十分配慮をしておるところです。

それから、すいません。先ほど私は100人ぐらいの減かなというふうに申したんですけれども、実際の受診の7.5%にあたる数というのが850人ということです。申し訳ございません。

○議長（小林 弘君）4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）ありがとうございます。そしたら800人ぐらいということですから、実際に受けた方の数も聞かせていただいても大丈夫ですか。実際に受診された方、今現在どれぐらいいらっしゃるのか教えてください。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）令和2年度の特健診の受診対象者が1万1,023人のうち、受診されたのが3,445人で受診率が31.3%でございます。

○議長（小林 弘君）4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）ありがとうございます。ですので、3,400人で、減った数がそれだけですから、その前になると4,200人ぐらいは受けられておったということですよ。そこからそれだけ減ったということですから、やはりここはしっかりと対策をしていかないといけないんじゃないかなというふうに思います。

せっかくなんで、画面を使ってお話をさせていただきたいと思います。分かっていることとは思いますが、ちょっと復習とい

いますかを兼ねてお話をしたいと思います。

これは厚生労働省の書類になりますが、新型コロナウイルス感染と診断された人のうち、重症化しやすい人はどんな人ですかというQ&Aですが、ここにも書かれていますように、診断された方のうち重症化しやすいのはやはり高齢者と基礎疾患のある方。一部、妊娠後期の方ですというふうに書かれています。その基礎疾患は、慢性閉塞性肺疾患や慢性腎臓病とか糖尿病、高血圧、心血管疾患、肥満、喫煙がそれにあたりますということでもあります。やはり新型コロナウイルスの重症化にとっては、基礎疾患のある方はやはり気をつけないといけないということでもあります。

この下にもありますが、30歳の人と比較した場合は、30歳の人を1とした場合、重症化率を1とした場合は、40代では4倍、50代で10倍、60代になると25倍になると。70代、47倍、80代になると71倍に重症化のリスクが高くなるということですから、高齢者の方にとっては基礎疾患がなくてもそれだけのリスクがあるということですから、やはりワクチンを打っていただくことは有用じゃないかなというふうに思います。重症化を防ぐという意味ではですね。

これが令和元年度の和歌山県の死因の原因の表になります。亡くなった原因の順番なんですが、まず1番目が悪性新生物、いわゆるがんになります。がんの割合が、ここにありますが、死亡者の総数に対する割合は25%。まず4分の1、4人に1人はやはりがんで亡くなっているということでもあります。ですから、そのがんをいかに早く見つけるかということも大事だと思います。がんにはいろいろなステージがあるのはご存じだと思いますけども。

これが和歌山県のがんの統計になります。これは和歌山県のホームページからになりま

す。和歌山県では、がんは昭和54年に死亡原因の1位となっており、現在も死亡原因の1位となっています。その中でも全国と和歌山県を比べてみますと、全国70%で和歌山県75%ということで、全国平均よりも高いと。全国で見ても8位にがんで亡くなる方が多いということになります。特に胃がんに関しては3位、肺がんでは4位ということで、高い数値が出ております。ですから、がんで亡くなる方を早く見つける意味でも特定健診は受けていただきたいというのがあります。なぜかという、やはり早期発見がすごく大事やからということです。

この表はがんにかかった方の10年間の生存率の表であります。がんにはステージ1からステージ4まで分かれますが、ちょっと小さいので大きくしますと、胃がんのところになりますとステージ1、いわゆる初期のがんの方の10年後の生存率は91.3%になりますが、ステージ4、いわゆる末期とかになりますと6.6%の生存率になるということでもあります。やはり早期に、初期に見つければ、それだけ生存率は高くなるということでもありますから、やはり初期に見つけていただくには特定健診が必要であると、有用であるということでもあります。ですからその初期というのは、お分かりだと思いますが自覚症状がない状態ですので、自分では気づかないということがありますので、それを気づいていただくためにも特定健診を増やすということは大事やと思います。

ただ、行っていただくためにはいろんなことを今取り組んでいただいておりますが、なかなか難しい面もあると思います。そんな中ほかの自治体を見ても、これは海南市のホームページになりますが、これは明治安田生命と健康増進に関する連携協定を提携しましたということで、去年7月、明治

安田生命と海南市は市民の健康増進や市民サービスの向上を図ることを目的として連携協定を締結されています。その中でも健康づくりに関すること、がん対策に関するということというふうなことも書かれております。こういったいわゆる民間との連携というのも大事じゃないかなというのがあります。ですから、こういった民間との連携を橋本市は今考えているのか、やっているのか。まずこの点が一点。

もう一点、今度は逆に行っていただかない方に再勧奨をするのがきを出しておると思うんですが、これはみなべ町のはがきになります。5種類を使っておるとのことですね。昨日のLINEのお話でもありましたけども、その方に合ったはがきを送るということが受ける側の捉え方が違うということですよ。ですから、みんな同一のはがきを出すんじゃないに、その方に合った、いわゆるセグメントをしていく、選択をしていくはがきの出し方を橋本市もやっているのかどうか。この点。これはみなべ町で実際に令和2年からされて、5%のアップで受診率50%に達成したということでした。ですので、こういったことを橋本市でも取り組まれているのか。この二点をお伺いしたいと思います。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）ありがとうございます。明治安田生命のお話なんですけれども、本市も明治安田生命とは令和3年7月5日に包括連携協定を提携しております。5項目について連携協力することとしておる中の一つに、地域の安全安心や健康づくりに関することという項目がございます。海南市との連携にあるような健康づくりに関する項目というのは、現在のところそういう項目としては上がってはおりませんけれども、今後相互に協力できるところについては、お互いにお話をさせていただいて取り組ん

でいこうかなとは思いますが。

そのほかに、別に連携協定をしております第一生命保険株式会社とは、第一生命の保険に加入されている方へ配付する情報誌の中へ、橋本市の特定健診やがん検診の検査項目や集団接種の日程の情報を掲載いただいでいくなどの連携協定も行っているところでもあります。

それとあと、みなべ町がされている人工知能を活用した特定健診率向上事業につきましては、これは本市におきましては平成28年度、和歌山県がモデル事業として市町村に募集していただいたことを受けて、県下市町村に先駆けて実施を開始しております。平成29年度から市の事業として毎年実施しております、本事業は国費で賄っていただける国保ヘルスアップ事業を利用して実施しております。事業の内容は、先ほど5種類のはがきを見せていただいたんですが、特定健診の未受診者に対してそれまでの受診傾向、その未受診者の方の受診傾向を人工知能が分析いたしまして、七つのタイプ別に、例えば去年は受けたけど今年はまだ受けてないとか、去年も受けてなくて、例えば受診もした形跡がないとか。病院にはかかるとる。病院にはかかっているんやけども健診には来ていないとか、今年初めて健診に来られたとか、そういうタイプを七つのタイプに分けてお送りしておるところであります。

これは実施を開始した平成29年度には受診率がやはり上昇いたしまして、2.7%上昇し効果が実感できておりますので、今後も引き続き事業を実施していく予定をしております。

○議長（小林 弘君）4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）ありがとうございます。そういった民間との連携、さらには勧奨用のはがきもAIを使ってその方に合ったはがきを送っていただいたりと、いろいろと取り組んでいただいておりますが、国が示してお

ります60%というところに対してはなかなかまだ厳しいということだと思います。ですので、いろんなことをまた進めていただきたいと思っております。

もう1回だけ画面を出したいと思っております。いろいろな啓発の仕方があると思いますが、これはがんの早期発見のために受診勧奨を進めますということで、厚生労働省のホームページで見れる画面になります。こういうふうな啓発動画の公開ということで、厚生労働省はこの下を押すと動画が流れるんですが、今日は用意ができてないので流れないんですけど。これを押すと動画が流れるというような啓発動画を作ったりもしております。

さらには、こういった「定期的に健診・検診を受けましょう」ということで、専用のチラシも作っております。新型コロナウイルス感染が気になって受診を控えている皆さまへということで、健康診断の会場では換気や消毒を行うなど対策に努めていますというようなチラシも作って、しっかりと啓発を厚生労働省もしておるということでもあります。ですから、こういったチラシもまた活用しながら、さらには、これは広島市のホームページになりますけども、コロナ禍でも健診を受けましょうというようなページを作って、健診は不要不急ではありませんということで、しっかりとホームページの中で訴えられています。今は広島市でも不要不急の外出を控えるように呼びかけていますが、健診は不要不急ではありませんということで、こういうコロナ禍であっても健診やがん検診を受診して自分の健康状態をチェックしましょうというようなことを訴えられています。こういったいわゆるSNSを使いながら、ホームページを使いながら、さらに市民の方に啓発していくということも必要だと思いますが、その点はいかがですか。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）まずはやっぱりコロナを気にして受診されない方への啓発というのはかなり大事かなと思っておりますので、広報やホームページで積極的に、コロナ禍であっても健診は不要不急ではないということをきちんと広報していかないといけないと思います。

それから、本市におきましてやはり健診を受けていただくというのが重要であります。特定健診とがんの検診というのをセットにして受けていただけるように同時に開催したりとかという、そういう工夫もしておるんですけども。あとは、未受診者に対しての先ほどののがきと同時に電話での勧奨であったりとかというのも、アナログ的なやり方ではあるんですけどもしておるところで。あと、受診された方のインセンティブとして景品キャンペーンをしたりもしております。いろんな手を重ねて、工夫を重ねて受診率を高めていきたいと思っております。

○議長（小林 弘君）4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）ありがとうございます。先ほどから言いましたように、コロナ禍においても重篤化を避けるためには生活習慣病を早く改善していただくということも大事ですし、がんにとっても早期発見・早期治療というのが基本であります。ですので、やっぱりそういった意味でもこの特定健診というのは重要になってくると思いますので、担当課の方には大変いろいろと取り組んでいただいておりますが、さらに取り組んでいただいて、少しでも市民の方が安心して健康で暮らせるように取り組んでいただけるように要望をいたしまして、私の一般質問を終わりたいと思います。

○議長（小林 弘君）4番 森下君の一般質問は終わりました。

この際、3時20分まで休憩いたします。

（午後3時7分 休憩）

---